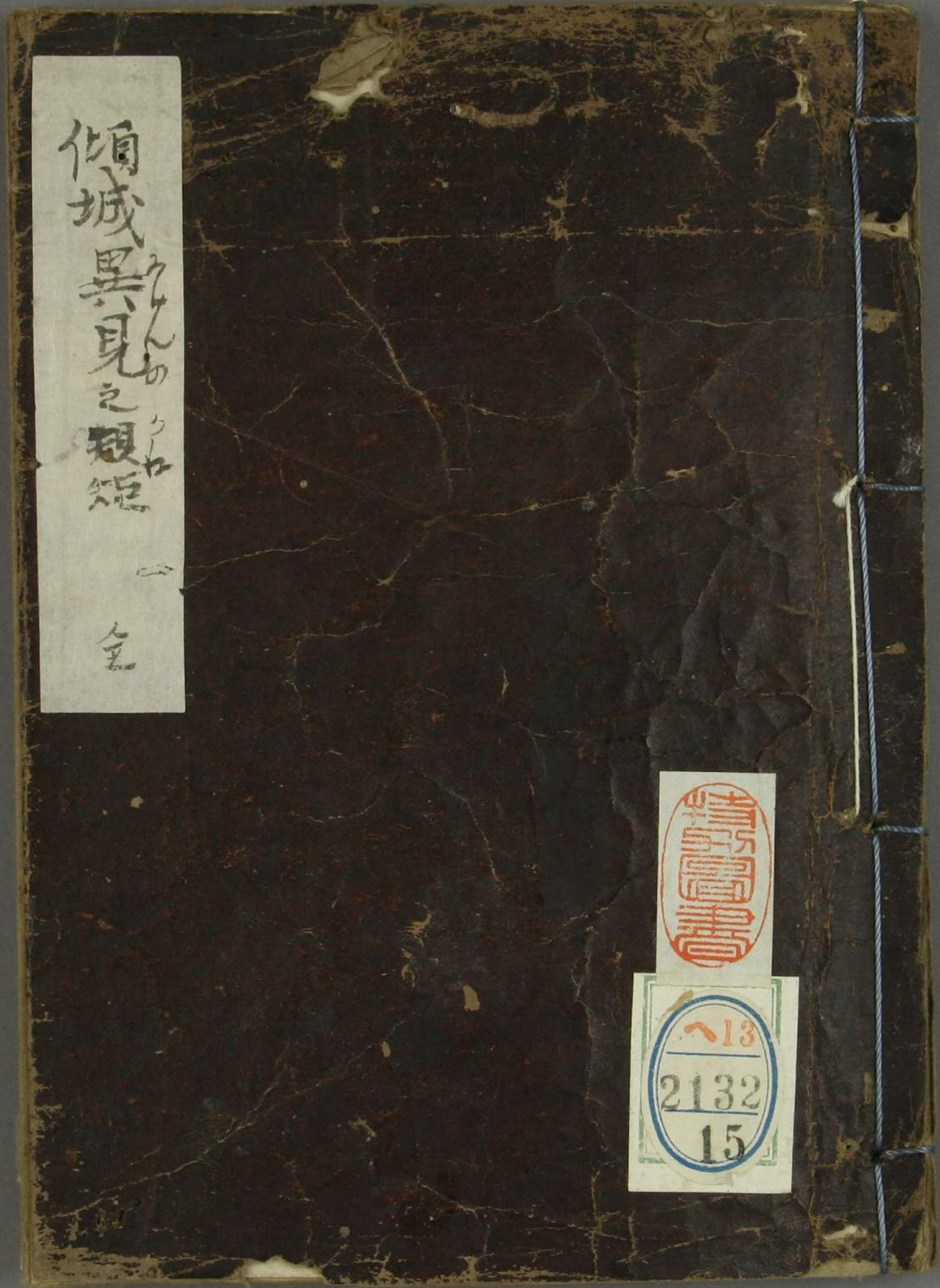


LICENSED PRODUCT
3/Color
White
Magenta
Red
Yellow
Green
Cyan
Black



傾城異見之類
全

2132
15



三及
廿
廿
廿

不許賣買



134
2132
15

自序

夫頃城の文字をよむやよむ昔いにしへ

多都すま々美女びよ結むす稱なづ号なづなり

尔こゝろ以よ川が乃を頃へよを字ををを傾か城きと

以よえをバを故ゆ婦め尔ののをかきるを副た



近世^{きんせい}を傾^{かたむ}くことなるに晒^{あび}所^{ところ}あり。

此^{こゝ}へ通^{とほ}ず家^{いへ}中^{ちゆう}よりみせを成^なます。

今^{いま}世^よ書^{かき}ハ。おふちのまじりて娼^{おん}婦^{にゆう}の

味^{あじ}表^{あは}をす終^{すま}り無^な頗^た法^{ぽう}客^{かく}

乃^の意^い味^{あじ}とすやうにあり。是^{こゝ}に

城^{しろ}を傾^{かたむ}く家^{いへ}の無^なかゝりて

歴^しるゝもの也。傾^{かたむ}城^{しろ}の文字^{もじ}を

いふふよありや。又^{また}傳^{つた}へ

聞^きくや。同^{どう}の鐘^{かね}ハ。其^{その}價^{あひ}。三

百^{ひゃく}兩^{りやう}とす。此^{こゝ}異^い見^{けん}の鐘^{かね}也。

迎も持ぬよ多々および候じ。
 廿^か紙代乃。三^{びや}五^か六^か
 料^{りょう}も^も冊^{さつ}々^々終^はう^うと^と斯^すハ
 題^{たい}す^すふ^ふい^いま^まの
 形^{かたち}

安永十丑の

活生

堪忍菴

吳綾軒誌



目次

發端 わり

大盡割不勉 ふいどんよふつあめとせす

貧公停間夫 ひんこうのまぶととらひ

不許多酒吞 かへさひとのむととあけさげ

處々禁廓變 ちよちよのきんかくとせ

閨中戒多情 ひんちゆうたがうといまひ

客妓之雜話 かきぎのざらと

目錄終

傾城異見之規矩

發端

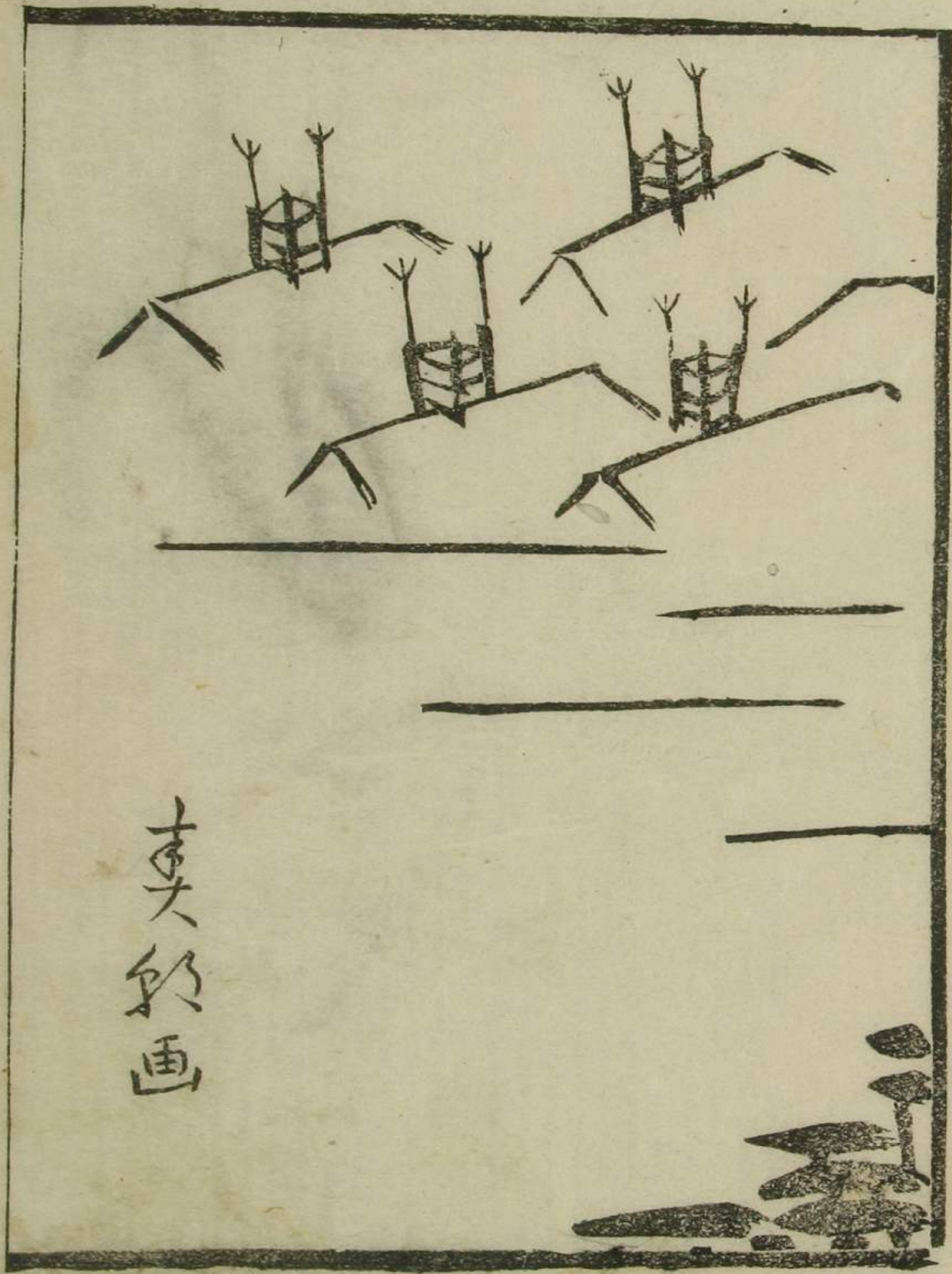
諫報苔深鳥不驚此二句みかきとそり飛らるる鳥不驚此二句みかきとそり飛らるる鳥不驚此二句みかきとそり飛らるる
歸代の例たしなれた赤まのうまととま懸ま川
海うみととま今いまこの時ときどどうう一一東都とうとの
解くわい衆しゆをを中ちゆうすすととむむららうう也也ななんんばばく

北^{きつ}吉^{ちよし}。南^{なん}品^{ひん}。東^{とう}深^{しん}。西^{せい}四^しの^の抱^{かか}郭^{かく}ハ^ハ勿^な論^{ろん}
 其^{その}外^{がい}國^{こく}場^ば所^{じょ}夷^い狄^{てき}れ^れ地^ちと^と名^なは^はく^くる
 娼^{あやし}家^や新^{しん}成^{じやう}は^はく^く祿^{ろく}。月^{げつ}く^くよ^よ増^{ぞう}長^{ちやう}し。
 日^{にち}く^く信^{しん}。だ^だん^{だん}ど^どや^や斜^{かた}な^なは^はは^はは^はく^く
 娼^{あやし}ふ^ふに^にか^かの^の家^{いへ}毎^{まい}よ^よ居^ゐる^る所^{ところ}の^の娼^{あやし}婦^ふハ
 何^{なに}もの^{もの}ぞ^ぞや。是^{こゝ}こ^ころ^ろに^にあ^あら^らは^はし^しめ^めよ
 身^みと^と賤^{ぢせん}ふ^ふも^もあ^あら^らは^はし^しめ^めよ
 五

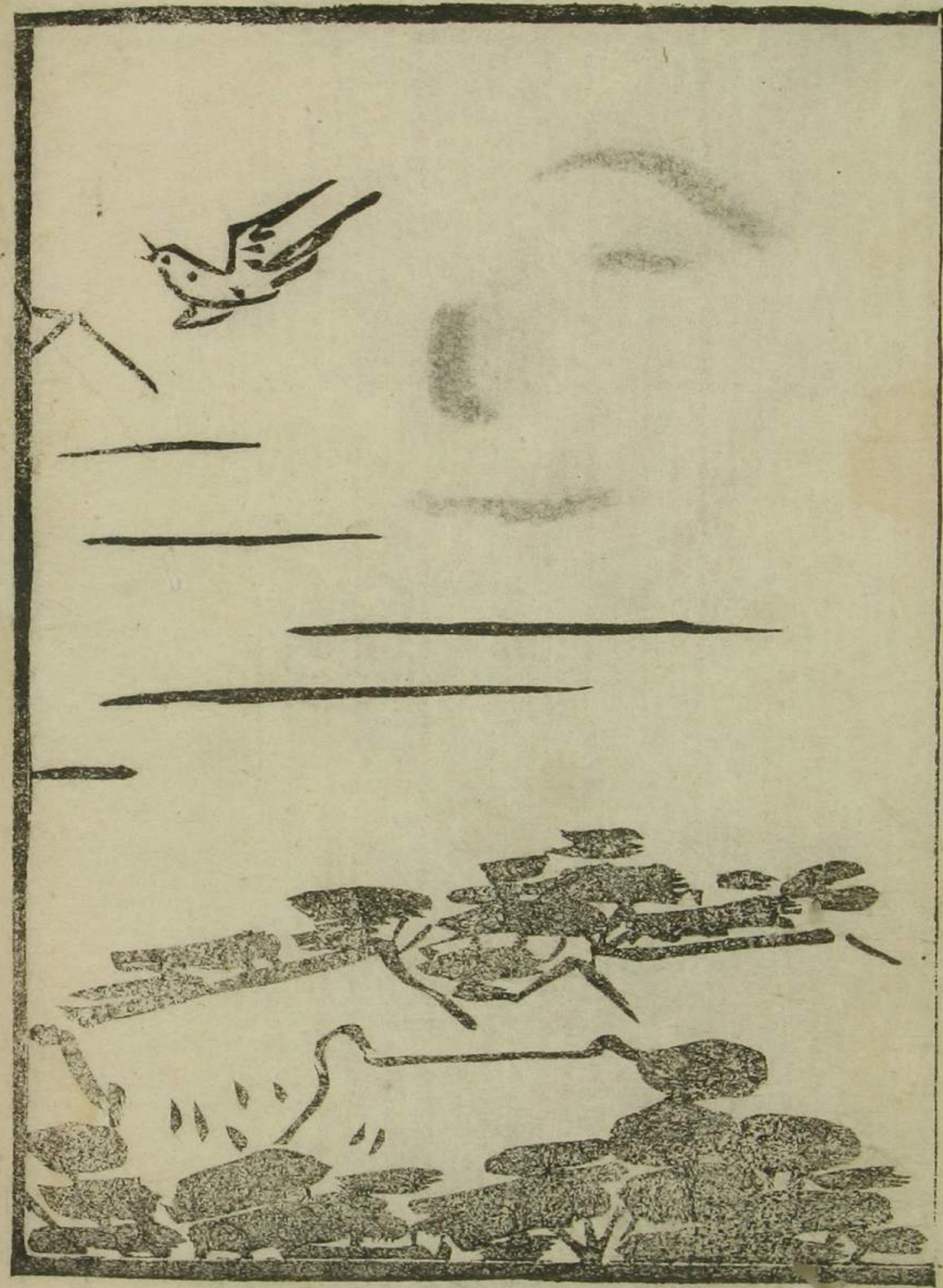
ま^まじ^じハ^ハ地^ちの^の身^みれ^れあ^あら^らは^はし^しめ^めよ
 身^みの^のむ^むも^も有^あり^りき^きい^いど^ども^も。娼^{あやし}婦^ふハ^ハ老^{らう}人^{じん}
 老^{らう}子^しな^なら^らず^ず。日^{にち}夜^やか^かの^の廊^{らう}よ^よ抱^{かか}づ^づん^ん人^{じん}
 け^け而^にと^とよ^よく^く抱^{かか}ふ^ふた^たか^から^らず^ず。あ^あら^らは^はし^しめ^めよ
 の^のみ^みを^をた^たす^すも^も我^{われ}ま^まし^し飛^と道^{だう}を^をお^おそ^そ
 ち^ちぢ^ぢの^の憐^{あはれ}み^みか^から^らし^しめ^めよ^よ夫^{おとこ}の^の文^{ぶん}を^をお^おそ^そ
 至^{いた}る^る人^{じん}を^をま^まじ^じと^と娼^{あやし}婦^ふの^の身^みと^とら^らは^はし^しめ^めよ

かひ成りしやう。そき身不意に
一々ん苦界ふ志づ。一匹乃未展了
客嘗し之どとかなんぞらまぐ釋さん
や此而をよしく別し。こころ
けしと金みせば。氏なりくきは乃
薬。おのれお世とする物し。のり
とれ六思成たよきるん

按スルニ。今迄シテ勸トシテ通トシテ徳野之書シヨス。數
多有トイ上トモ。娼婦ノ心得ヲ
書スルハ余リ不見故ニ今爰ニ記ス
索モト娼婦ニ異見スルハ諸客自ラ
其意ヲ悟カトレトノ誨ヲシテナルカ



古大新画



たいていふつとあせせす

大盡削不勉

むうしるま。全^{ぜん}盡^{じん}比^ひ娼^{しょう}婦^ふも^もを^を持^{もち}り
大^{だい}盡^{じん}と^と削^{さく}條^{じょう}を^を。こ^こし^しや^やあ^ある^るこ^こも^もあ^あら^らず
清^{せい}く^くを^をし。い^いち^ちを^をら^らま^まん^んと^と母^{はは}の^のあ^あや
多^たく^く多^たふ^ふな^なれ^れ客^{きやく}の^の不^ふ勉^{めん}さ^さる^る
事^{こと}の^のい^いり。是^{こゝ}大^{だい}なる^る間^ま遠^{とほ}し^しを^をい^いふ

全^{ぜん}を^をき^きり^りし^しん^んの^のま^まふ^ふよ^よの^の我^{われ}ま^まを^を
い^いふ^ふ也^{なり}。お^おの^のづ^づい^いち^ちも^も事^{こと}と^とあ^ある^る
物^{もの}の^のい^いぢ^ぢも^も。ま^まが^が乃^の若^{わか}家^{いへ}を^をぬ^ぬ。か^かの
事^{こと}ハ^ハかん^{かん}ん^んし^し。は^はが^が大^{だい}せ^{せい}の^のつ^つあ^あ。
お^お一^{いち}己^ぢハ^ハ乃^の寺^{てら}あ^あひ^ひお^おの^のお^お。も^もん^ん日^ひ
その^{その}日^ひは^は餓^うえ^えの^のあ^あき^きく^くぬ^ぬが^が行^い要^{よう}ら^らる^る
ゆ^ゆ。其^{その}い^いち^ちも^も間^ま丈^{ぶち}ハ^ハ我^{われ}が^がさ^さら^らず^ずも^も

次舟渡りてさかるといふ事し

いんごのまよとこと
負公停間夫

間夫ハ大切ノ事シ。けるまよとこと
有る。すべハいきぢらふものとのんぢ
と密ろふば海が負公。又ハ地まよと
かまよ。危角逢うとまよとまよと好く度

カ

すべと母師うたひし。是をいら
かよと云う事なむ。多くハ名
ふかきり大者よききハはつき出しガの色
密ろふとまよと母のふらぬまよ
大まよらる得らひ也。まよと一まよん
ハまよとまよとまよとまよとまよと
まよとまよとまよとまよとまよと

は種一き事なげや。ましくあしりし海
薄余みく身と志づむとらんまがひ
まがらぬ中うらん得。多りれ客の思めて。
たうとかなうらん。うあく。うあ形の
うらんかか。うらぶ。きものもき人を
見うけ薄とらん。身のう人をねまが。
たうと来とまぬ事有る海。うとまど

十

はく先の中れ標としいか。なまし

不許多酒吞

娼婦酒を吞すぬ。興すくなき夜。
のまねす海。うらぶとまぐのむる。
あつらひ。酒よ酔ハおのうら。不勉
よなるものも。うらぶ。望の興い

かゝうすくとも。のまぬ方がましならん
を。もつと酒さこのむ客さかればど
大うさぞ。おこいともく。具ぬのはあを
又ハおのまぞ。ようんがうれ情弱うしう。
何まうしとと清うしと知る由し
其子細きいふ中しぬる大通人し。又今
初よ来たる客と。け里に來るかは。

園中の樂しむが中し。望の真よのこ
繁しとく。ちやの事とおのぬ情の
為きよ。の原や。踏よ女乃酒よ碎く
櫻うなるを。深くなぞしとらあそむ。
何んさうれそるたふとさるるまハ情
志む酒まきとれり

きよくうぐとまきんが
所々禁廓変

廓啓の事一足大きぬる愧し。ま
くふくも。多り城のありしゆ
人々都々定経中なる城
ものらび人かゆしく契情乃
くがに古の事ものよおれじ。
其地播る事。是場亦どきまふ
育れ世に永く其家不勤者

お屋くはれ亂性無家風とりのこ
如やちく勉る事。自さしおれ
下交くがせしもの。癪よたの
行先くみく七八と愛うし
其家乃おれおきぬ。是る
そのおらる事あり。ゆん
すつてん。

有りぬまねど。まんずいびくおのこを
ほしめ。我おり人さまちく其の
情をそめくまどりふ時。是は女
ちくぢや

客妓雑話

右は際くほ子よらよ動くべし
空契情をと傳へるまきとめし。

左すま六。深なるる相對死等き
有りはしき。客をよめらふく。よく
推察しく何そふ時ハ。あま
儀。推し輝し高時の大通し。
其中より互の密をわらぬ。いふ
夫婦。現じ。控籠見ふく事
有りむ。おのこをい。お親斗の得ん

あり。氣ら海もあゝぬまぬようい。
 ぢりすーぬさ。たゝゝんうす。
 末とあぬまゝも。物^{つゝ}中の様あて。
 はーり。あゝちうを公せ。け上の
 ちのーち。又容はさう名じむ
 小あさぐい。余り容をせくもの有り。これ
 大きあさるん得ちぐい。速と大海を

手^てで染くやうな物あは。あよりぬ事ー
 ちささ。何とをいひー本うとある
 通る。内小舟。あわかちあうてあ乃。
 目ふはくちあぬあさ。あ海く
 けもあふあ。せやうとけいけあーと
 有る。まうわあ。あれがあ容中。
 せんぐの^{いぬ}物。あああうとあ

その也。又午よむし。其理不引
は是。客の去人し切まる時ハ。其切りの
くめ大ふりし。是我相くふ離
をさそれし。是くかのあひを切せ。
入墨をさせる類たぐひなり。我あり老
と支離うしろふするハ。詮せんなる事しや。左
左やど類うしろしは。勅をさせぬら。

まがたうばハ。行くぬがまーなるんを。
たぐひよごの美まこととくくまどし時ハ。
なんぞせうこうよおよんわ。其のよまハ。
いふで類うしろしき進。うがめがうよ。
あひ切也。髪きれとといれま。ちん
く其めがうよ。しあうきさるま
有り。とかく色道ハ。かんしんを中一

あり。がー然しんとせむのありこと。こゝに
 こゝにまゝとを盡さば。おのひひと先まへの志こころ
 を去るいもの。愛よ望のぞむもの。これ
 あり。或ある答こたへをこたへし。傾かた城しろふたどどこ。
 志こころがくくんををばくくし。かかよよりりととも。
 あり。おととししとといいふふととななくく。くくししせせしし
 小。世よのよどどおおつつぎぎ物ものちちりりとといいふふ。

41

縁ゆかりがららななれれとといいふふ。ののここららとといいふふ。むむちちきき
 ををたたくく通とひひらら。或ある夜よままるるののここららとといいふふ。縁ゆかり
 のの満みちち。ささららとといいふふ。縁ゆかりががららとといいふふ。むむちちきき
 のの縁ゆかり。とといいふふ。おおののひひりりびび。本ほん懐なつかむむののありあり
 ききんん。枕まくらををかかららるる。祝いわいのの地ち
 七ななをを八はちをを九くをを十じゅうををとといいふふ。おおののここららとといいふふ。

又また縁ゆかりががららとといいふふ。おおののここららとといいふふ。

少書すく部一に。やぐくゆき来り
此并伝見く。いぞおしやとひ見
まが介るる。深き中とたうし
し也。是まの多くむと書なれ。聖都
かるとばなれども古并乃らて後を
よくいひかろし。友。ゆくと其らよ
かぐし。そのゆらん。いづれは都き

事也。いづれんきとらうし。いづれ
まより出るもの友。か。い有りて
そのなれど。い多うかうき。いおわ乃
者るき。子。い。又或妓婦の白ふ
君。いま今戸乃ら。い。郭公
是。い。き。ぬ。く。い。大。門。より。い。帰。る。さ。か
い。ま。い。の。声。を。き。く。よ。あ。ら。よ。い

まゝとふ。殊勝なるもの。茶きやうと
志きふらんき。一海き事えんご云外不
わづね多う。ちりれけ。客後ふけい
まうば。是ぐぬふ城しやうとか。き事ん事
わ。むよ多う。い。感えんずる。人。殺ころる。
但し。かり。ゆら。た。や。ご。よ。は。あ。い。ご。れ。た。
や。い。ご。れ。の。ま。ま。ア。一。友。風かぜと。

耕らう。う。み。や。其。ら。き。志。了。福。大
又。井。の。と。の。を。録。ま。す。よ。し。と。れ。を
と。と。有。れ。其。の。誠。を。志。ん。の。時。
相。と。を。かん。ぐ。心。傳。心。ば。多。く
相。女。多。う。志。と。な。ご。り。ん。の。庭。も。知。
は。し。身。は。究。加。志。古

跋

愛い我朋吳侯わがともたる者有る。如句
たのむものや。いふは生得せうとく優去ゆうきょ放蕩ほうたう
あるは物よりはうたふ人。うたふ
世に無縁むゑんなるがど。目こく人々をこれ
死いを答ふは唯かんめんを對たいす。
よめく世話せわの場ば恐おそみまといふは

六

有る。則表すなはち遠とほく。己おのあく
峰みねく。五兩ごらうの文字もじはあつて
地乃ちのげ。うゝ是こゝ後ごと改かへめぬ。然しかううま
今いまこゝろ小冊せうさくを編ひく。予われは改かへをな
冊書さくしよ亦またかんめんかんめん中ちゆう一いつやせんせんこれ
定ま定まル異か見けんらあ。かんめん是こゝ後ごと改かへ
いふ人を且かつ斬せんのまをくらへん

市料管堂いふ意ふや。是は見え
人つれがあふまゝにて。何れも
唯是後朝くや笑つて後す

四圍散人

左
漢

奕通雙紙

近刻

